

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム 帯迫
訪問調査日	平成 21 年 10 月 20 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 2 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

事業所番号	4670104951
法人名	医療法人 明輝会
事業所名	グループホーム 帯迫
所在地	鹿児島市吉野町2826-1 (電話) 099-295-7055

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成21年10月20日	評価確定日	平成21年12月2日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	18,000円(水道光熱費他)
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	140 円	昼食 280 円
	夕食	280 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	78 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内村川上内科 ・ 大田歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の閑静な住宅街にある当ホームは、中庭の桜の木を囲むように通所介護施設とグループホームが棟続きになっていて、リビングから中庭を眺められるので開放的である。また、庭先を車椅子でも自走できる工夫がされている。地域密着の理念の下に、地域の方を招いて交流会を計画的に行なうことで地域に認知されてきている。管理者は、医療連携体制を活かし利用者の旅立ちのお手伝いまでしていきたいと考えており、職員も利用者との関係を日頃から密にしつつ、最後までお世話させてもらいますという気持ちで支援している。利用者と家族にとって安心信頼できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、職員会議や運営推進会議でも報告され話し合いが行なわれている。改善課題は、災害対策で地域の方に消防訓練に参加してもらい地域との協力関係を築いてほしいという内容に対し、5月の消防訓練には地域の方にも参加してもらっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は職員に白紙の自己評価表を渡し、それぞれの意見を記入してもらってからユニットのリーダーがまとめている。職員は自己評価を通して、地域とのつきあいや家族とのつながりの大切さを考えさせられ、ケアの振り返りとなっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は定期的に、利用者、家族、民生委員、包括職員、理事長、地域代表などが参加している他、時には、警察や消防署からの参加もお願いしている。事業所の状況報告後に参加者の意見交換が行われている。会議を通して地域からの情報を得る事ができ、職員も地域の方に関心を持つようになり、認知症で独居の方に声かけをするなどしづつ地域への関わりを深めつつある。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が意見を表せる機会は、運営推進会議と年2回開催される家族会、玄関に置かれている意見箱、面会時などである。家族会では家族だけで話し合う機会もあるが、意見等があまりあがらないので、計画作成担当者と一対一で話し合う場を設けている。出された意見や要望は話し合い運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し回覧板などから地域の行事情報などを得ている。日頃から散歩や地域交流会のチラシ配りなどで挨拶や会話をするように心がけている。地域交流会には、地域の方を招待し菓子作りや音楽演奏を行ったり、また、地域の行事の運動会や夏祭りなどには出かけていくようにしている</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、寄り添うケアを行ないます。」と言う地域密着型サービスを基に法人の運営理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲げられ、2ユニット合同の会議の中で事例をあげて理念を再認識できるように指導している。職員は、一対一で寄り添う時間を持てるように心がけ、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板で地域行事の情報を得て、地域のまつりや運動会などに参加している。事業所で地域交流会を企画し定期的開催するため、利用者と一緒にちらし配りをしている。交流会では、菓子作りや音楽隊の演奏、手品などで地域の方とふれあっている他、学生の体験実習などの受け入れもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、職員会議や運営推進会議で報告され改善されている。今回の自己評価は、白紙の評価表を職員に渡し、意見を記入してもらった後で、各ユニットのリーダーがまとめている。職員は、利用者と家族、地域のつながりの必要性を感じるなどケアを振り返る機会となっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に年6回開催されており、固定して出席される方の他に時には、消防署や警察の方に参加して頂くこともある。事業所の状況報告後に参加者の意見交換を行なっている。会議を通して地域の情報をえられること、他、職員の地域に対する意識が変わってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れを年1回行っている。市担当者との行き来は出来ていないが、包括職員とは連絡を取り合い情報交換を行いサービス向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行される便りには、事業所の行事の様子や行事案内の他、本人の写真、担当職員が日頃の様子などを記入し、請求書と一緒に送付している。職員の異動については、仕事がある程度落ち着いてから会報誌で報告している。金銭出納帳は、面会時に確認してもらい印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回、行事に合わせて開催されている。家族だけで話す機会もあるが計画作成担当者が一対一で話し合う場を設けている。特に苦情はないが、家族の思いを大切にできるように職員に指導している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動を抑えるよう、勤務時間の工夫やイベントでのストレス解消、職員へのアンケートをとり問題点を把握するなどの努力がされている。利用者へのダメージはないが、ユニット間のマンネリ化防止と利用者との交流のために日勤帯での交替を行なうなど工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週1回のカンファレンスで事例を通して細かく医療・介護面での指導をしている他、月1回の職員会議は事業所独自の勉強会、法人内の事業所4箇所と合同で月1回、接遇・感染症・認知症等の勉強会を行っている。外部研修も、必要と思われる内容について職員が積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吉野地区グループホーム連絡協議会に参加し、研修会や2ヶ月に1回の職員交流会も行なわれている。ホーム同士の交流もイベント時に利用者を交えた交流会を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設からの入所の場合でも本人、家族、ケアマネジャーに見学に来てもらい雰囲気を感じてもらっている。もし、見学できない時には施設に訪問し馴染みの関係作りを行なっている。入居後は、家族に面会回数を多くしてもらおうなど協力してもらい徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に寄り添いながら聞いた昔の話でのきびしい表情や、得意分野の梅干作りやらっきょう作りを教えてくれる時のうれしそう笑顔や得意そうな顔の瞬一瞬を家族にも伝えてあげたいと思いつつながら喜怒哀楽を共にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に寄り添いながら少しでも利用者の思いに近づけるように、表情や言葉、行動をよく観察し思いの把握に努めている他、困難な方には家族からの情報と観察力を働かせるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎週1回カンファレンスを、訪問看護が入る前に行い看護・介護の統一を図り、職員の気づきについての話し合いを行なっている。サービス担当者会議には、本人、家族、訪問看護も参加しているが、家族が参加できない時は前もって意向を確認し、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週行なっているカンファレンスの中でモニタリングを行っている。状態の変化に気づいた時には、ADL表を用いて全員でチェック、検討し、必要に応じて家族とも話し合い見直しをしている。	○	職員は、毎週行なっているカンファレンスの中で利用者の状態についての把握がされているが、日々のケアの中で利用者のサービス計画に対する確認ができるような工夫をされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、週1回の訪問診療、週1回の訪問看護による健康チェックを行っている他、家族からの希望があれば、通院介助も行い、外泊支援ではケアマネが自宅を訪問し、家族に介護方法を指導している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を確認し納得した上でかかりつけ医を決めている。他科診療については、家族の他職員も付き添い適切な医療が受けられるように情報提供を行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針も作成され家族の同意も得ており、家族が希望すれば事業所で看取りを行える。この1年間で3人の看取りはその都度、家族、主治医、関係者と話し合いながら行なってきた。職員には、常日頃から利用者との密な関係を持ち、最後までお世話したいという気持ちが看取りのケアには大切と伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関する勉強会は、法人施設と合同で行なっている。職員も利用者との関係に慣れてくると言葉遣いが馴れ合いになったりすることがあるため、その都度注意し指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、利用者のタイムスケジュールを作成し、その行動を行なった時の表情などを書き込むメモがわりに活用している。利用者の希望を確認しながら、買い物、散歩、園芸活動(花や野菜の手入れ)囲碁や将棋(隣のユニットに出かけていく)馴染みの美容室へ行くなどの支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に希望を聞き、一緒に育てた野菜を使って作っている。利用者は野菜の下ごしらえやお盆拭きなど力量に応じて手伝っている。誕生日には、本人の好物を提供したり、ラーメンを食べに行ったり、餃子作りや焼肉パーティーを家族と一緒にこなうなど、食事を楽めるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している	週3回入浴は、業務的にならないようにリラックスしてもらう事を心がけている。シャンプーハットを使い目に入らないようにしたり、保湿剤をいれたり、一番風呂ですよと声かけし気持ちよく入浴してもらっている。拒否される方には、服を少し濡らし着替えましょうというように、それぞれにあった対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、野菜を切ったり、台拭きや洗濯物たたみなどをしてもらい、週1回作業療法士が来所しリハビリを行い、レクリエーションでは、ボール遊びやカラオケなど、リビングのテーブルを中庭に向けて花見を兼ねてお茶をしたり、ドライブ、足湯などで楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれのユニットから中庭に出られるので、日光浴をしたりお茶をしている。事業所の周りにも畑を作り、車椅子でも草取りや野菜の収穫ができるようにしている。また、地域交流会を毎月開催するため、案内のちらしを利用者の方とあいさつしながら配っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。現在は長く歩行される方が少なく、外出傾向の方もいない。今までは事業所の存在も知られていなかったが、地域交流会の回を重ねるごとに、顔見知りになる方も増えて、声も掛けやすくなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に年2回の防災訓練を行っている。5月の防災訓練には地域の方にも参加してもらっている。自動通報装置もありスプリンクラーは工事中である。毎月、利用者も一緒に自主訓練を行っている。非常食は法人で備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は把握され記録している。食べられない物(アレルギー等)や嗜好の把握もされている。栄養のバランスは、法人の栄養士に見てもらいアドバイスを受ける予定にしている。食事形態も刻みやとろみなど一人ひとりに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	アイランドキッチンからは利用者の様子も良く分かり会話をしながら準備ができ、料理の匂いや包丁の音が聞こえ家庭的である。台形のテーブルは組み合わせが自由で、ユニットの特徴に合わせた使い方をしている。壁には、手作りの日めくりカレンダー・花見の写真が飾られ、季節の花が活けられている。中庭からやさしい光と風が入り居心地よい空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、トイレと洗面所が備え付けられ、入り口にはそれぞれがのれんを掛けている。使っていたベットやタンス、椅子、テレビ、衣装ケースなどが持ち込まれ、畳みの部屋に冬はカーペットを引くなど、居心地良く過ごせるようにしている。		